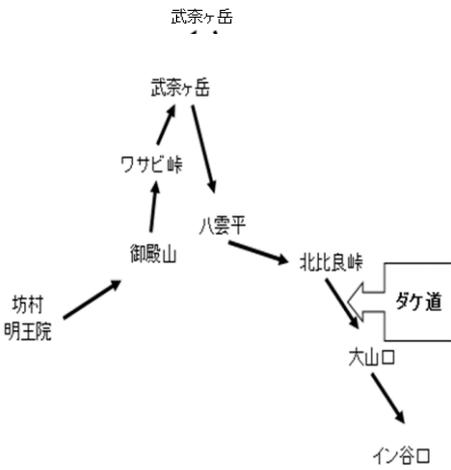


山行報告書

京都田辺山友会

報告者 佐坂茂美

山名	武奈ヶ岳	山行名	市民秋山トレ																																																												
ルート	坊村—御殿山—武奈ヶ岳—八雲ヶ原—北比良峠—（ダケ道）—イン谷口																																																														
山行日	2014年9月7日	天候	曇り後晴れ																																																												
参加者	リーダー：佐坂 サブリーダー：小川 男性：（11名） 後藤 梅澤 金本 津田 中田 岡部 竹原 西川 上田 一般 五十嵐 坪倉 女性：（13名） 竹原 江平 伊藤 五百田 姫島 上田 岡本 大林 上杉 加藤 徳田 玉井 河野 合計：27名																																																														
ル																																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">コースタイム</th> </tr> <tr> <th>地名</th> <th></th> <th>時：分</th> <th>地名</th> <th>時：分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">新田辺駅 松井ヶ丘</td> <td>集</td> <td>6:15</td> <td rowspan="2">北比良峠</td> <td>着</td> <td>14:35</td> </tr> <tr> <td>発</td> <td>6:35</td> <td>発</td> <td>14:40</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">坊村バス停</td> <td>着</td> <td>8:30</td> <td rowspan="2">大山口</td> <td>着</td> <td>16:20</td> </tr> <tr> <td>発</td> <td>8:50</td> <td>発</td> <td>16:40</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">御殿山</td> <td>着</td> <td>11:10</td> <td rowspan="2">イン谷口</td> <td>着</td> <td>15:10</td> </tr> <tr> <td>発</td> <td>11:25</td> <td>発</td> <td>15:20</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">武奈ヶ岳</td> <td>着</td> <td>12:05</td> <td rowspan="2">京田辺</td> <td>着</td> <td>18:45</td> </tr> <tr> <td>発</td> <td>12:40</td> <td>発</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">八雲平</td> <td>着</td> <td>14:00</td> <td></td> <td>着</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発</td> <td>14:10</td> <td></td> <td>発</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コースタイム				地名		時：分	地名	時：分	新田辺駅 松井ヶ丘	集	6:15	北比良峠	着	14:35	発	6:35	発	14:40	坊村バス停	着	8:30	大山口	着	16:20	発	8:50	発	16:40	御殿山	着	11:10	イン谷口	着	15:10	発	11:25	発	15:20	武奈ヶ岳	着	12:05	京田辺	着	18:45	発	12:40	発		八雲平	着	14:00		着		発	14:10		発	
コースタイム																																																															
地名		時：分	地名	時：分																																																											
新田辺駅 松井ヶ丘	集	6:15	北比良峠	着	14:35																																																										
	発	6:35		発	14:40																																																										
坊村バス停	着	8:30	大山口	着	16:20																																																										
	発	8:50		発	16:40																																																										
御殿山	着	11:10	イン谷口	着	15:10																																																										
	発	11:25		発	15:20																																																										
武奈ヶ岳	着	12:05	京田辺	着	18:45																																																										
	発	12:40		発																																																											
八雲平	着	14:00		着																																																											
	発	14:10		発																																																											

山行報告

秋山トレ一回目の反省を踏まえ、秋山参加予定者のみならず翌週に予定されている八甲田山参加予定の参加者もあるため、本番の御嶽山のルートを決めて頭にいれ 参加者と本番での役割担当の確認もあり、

- ① 行動順位を班の順位の通りに進める。
- ② 無線機の出発前の点検
- ③ 復路にガレ場や危険と思われるトラバース箇所のある為山足、谷足の注意
- ④ トレ山行1回目での足釣りを防ぐ為の歩き方
- ⑤ ストックを使う際の前後者との距離
- ⑥ 遊撃担当者の位置取り 等々

を説明し、準備体操後トレ山行の開始となった。

当日の参加者は「秋山登山参加者」「八甲田山山行参加者」と単にトレーニング山行をしたいとの申し出のあった計26名の山行となりました。蛇足ながら、坊村のバス停で初級の同級生に遭遇し、「何で？」と尋ねるとその人が所属している会の秋山の個人トレでの単独行とか・・・（単独行の是非は抜きにしてもやはり皆それぞれ登りたい山に登るための自主トレをやってるんだなと関心ひとしきり。）

トレ山行自体はほぼ順調に進み、御殿山に向かう急登もどう



にか予定通りのコースタイムで登り切りました。

毎回のことではあるが 「御殿山」 のピーク手前の広がっている場所での休憩。 その後ワサビ峠まで下り歩行が始まり 皆慎重に足場を確認しながら下りて行った。 この地点を過ぎると残る



は若干の登りと西南陵の尾根歩きである。 途中には夏山ルートと冬山ルートがあるが、今回は踏み跡のしっかり残る夏山ルートを選択しました。 前日まで心配されていた天候も「晴れ男」の参加もあり快適な楽しいハイキング歩きとなった。 武奈ヶ岳山頂や北比良峠からは「トレ山行」を忘れさせてくれる360度の展望を楽しみ、三々五々の仲間グループで食事の後、恒例の集合写真撮影。 出発時には出発時刻が聞こえなかったのか 数人が遅れましたが各班の班員数を確認し順調な班単位での下山開始。

頂上では坊村トイレ前で遭遇した初級の同期生に再開したため、6月29日の「搬出訓練」の寸評を聞いてみたところ、同会でも検証すべく話が進んでいる由。 あの救出方法の適否とは別に「石を投げ、波紋が少し広がったな」自己満足した次第です。

昼食後の下山ルートは本番でのガレ場を想定し「ダケ道」を選んだ。 最後尾を歩いたため途中の詳細は曖昧ですが 無事下山口である「大山口」到着し、その後はイン谷口までの単純歩行でした。

結果、特にヒヤリハットの報告も無く2回目のトレ山行を終えることが出来ました。



(写真提供：小川さん)

今回のトレ山行で思ったことは

- ① トレ山行の山城選定は（標高差、ガレ場、ザレ場、岩稜、歩行時間等）を考慮した本番ルートに相応しいコースを選ぶべきである。
- ② トレーニングは参加者の山行（歩行）トレのみならず、本番当日の役割担当者の任務確認トレでもある。
- ③ 今年の夏山集中トレのように2泊、3泊と小屋泊のある場合は「雨天」もありうるので、時には「降水量50%は中止」すべきでなく、雨具を装着した山行体験もしておくべきではなかろうか？
- ④ トレーニングと銘打ってあるが、「参加可・不可」の判断山行（参加不可の通告は担当者としては難しいことではあるが）でもあるのではないか？
- ⑤ 1～2回のトレ山行では体力も歩行技術も体得できるとは思われない。 夏山、秋山の参加希望者は例会山行参加時よりそれなりのトレ（小屋泊装備）をすべきではないか・・・等です。

トレ山行そのものは上述の通りですが、唯一残念に思ったことは帰路のバス内で某会員が後部座席より(多分アルコールの勢いに押されてとは思いますが)、他班の批判の大声が耳に入ったことです。真に問題と感じたのであれば、正々堂々と素面の状態で問題提議すべきではなかったでしょうか？

ヒヤリハット 無し

